

海外安全対策情報（平成25年度第1四半期）

1 社会・治安情勢

(1) 4月13日、インドネシア国内線のライオン航空の旅客機が、バリ州のングラ・ライ国際空港に着陸失敗し、滑走路手前の海に墜落しましたが、機体は海の浅瀬で留まり、数十名の負傷者が出たものの、犠牲者が出る大惨事には至りませんでした。

(2) バリ州では、5月15日に行われた州知事選挙について、現職知事と現職副知事との接戦の末、現職知事が僅差で勝利しました。しかし、敗れた陣営はその結果を認めず、対立が続いていましたが、選挙結果を不服とする異議申し立てが憲法裁判所によって却下された後は、同選挙を巡る対立は収束に向かいつつあります。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪発生件数に関する統計は発表されていませんが、外国人が被害となる事案として、依然として、ひったくり、スリ、車上狙い、強盗、空き巣被害が多く発生しました。

(2) 邦人被害事案

5月中旬、デンパサール市内において、バイクに乗った邦人女性がひったくりの被害で転倒し、右肩を骨折しました。また、6月中旬にも同市内で自転車に乗った邦人がひったくり被害に遭いました。

6月中旬、シンバラン地区において、駐車した車から貴重品の入った鞆が盗まれる車上狙いの被害が発生しました。

6月下旬、タナロット寺院において、邦人旅行者が鞆に入れたポーチをすられ、財布等が盗まれました。

また、5月及び6月、デンパサール近郊のバトゥブランやサヌール地区等において、外国人風の男女から「日本円を見せてほしい」などと声をかけられ、お金を抜き取られる被害が複数件発生しました。

このほか、表通りから少し入ったところにあるような両替所において、手品師のような早業でお金を抜き取られるケースも報告されています。

(3) 邦人以外の被害事例

5月初旬、北クタ地区を中心に、豪州人、カナダ人、英国人、スイス人等の外国人が居住する住居への強盗被害が連続して発生しました。また、5月中旬、バリ東部のカラニアセム県において、欧米人観光客を狙った強盗や盗難被害が2件発生しました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

4月中旬、中部スラウェシ州の刑務所からテロリストが脱走する事件、5月、

西部ジャワや中部ジャワ州においてテロリスト掃討作戦が展開され、20名以上の容疑者が逮捕される事件が発生しています。バリ州ではテロ等に関わる事件は発生していませんが、バリ州以外からのテロリストの侵入や爆弾の持ち込みを警戒する動きが見られました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

6月初旬、バリ島のサヌール地区において、邦人旅行者等を狙って、「日本円を見せてほしい」などと声をかけて話しかけてくるアラブ系と思われる外国人2人組が、同邦人が拒否したにもかかわらず、宿泊先の部屋の前まで執拗に追尾し、部屋のドアを叩いて脅すという事例が報告されています。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

バリ州内の道路事情について、本年10月上旬のAPEC首脳会議に向けた道路整備（サヌール地区、空港、ヌサ・ドゥア地区を結ぶ海上高速道路）が行われています。また、主要幹線道路であるバイパス・ングラ・ライのシンパン・シウルにおけるアンダーパス工事が完了しました。これらの道路整備により、空港周辺の主要幹線道路の交通渋滞がある程度改善することが見込まれます。

以上